

市町村名	与那原町
------	------

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-① 「御新下り」関連史跡復元・周辺整備・歴史資料館(仮称)整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	生涯学習振興課	事業実施(予定)年度 平成27~29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-3-(2)

事業内容
歴史・文化を後世に継承し、歴史文化を発信する為、「御新下り」関連の史跡等を復元し、歴史資産を構築し、新たな観光資源としての活用を図る。更に安全に来訪者を迎えるための周辺整備を行う。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	3,316	—			
	(b) 予算現額	2,669	—			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 647	—			
	(d) 繰越額	0	2,669			
	A. 計 (b+d)	2,669	2,669			
	B. 執行済額	0	2,592			
	うち交付金充当額	0	2,073			
	次年度繰越額	2,669	0			
	執行率 (%) (B/A)	0.0%	97.1%			
	予算の状況の説明	平成27年度は整備計画について、町文化財保護審議委員会との事前協議が難航し、計画の見直しや再調査を実施する必要が生じたため、年度内での業務完了が困難となり、事業執行を次年度に繰り越した。平成28年度は指名競争入札を以て業者を選定した。77千円は入札残による不要額である。				

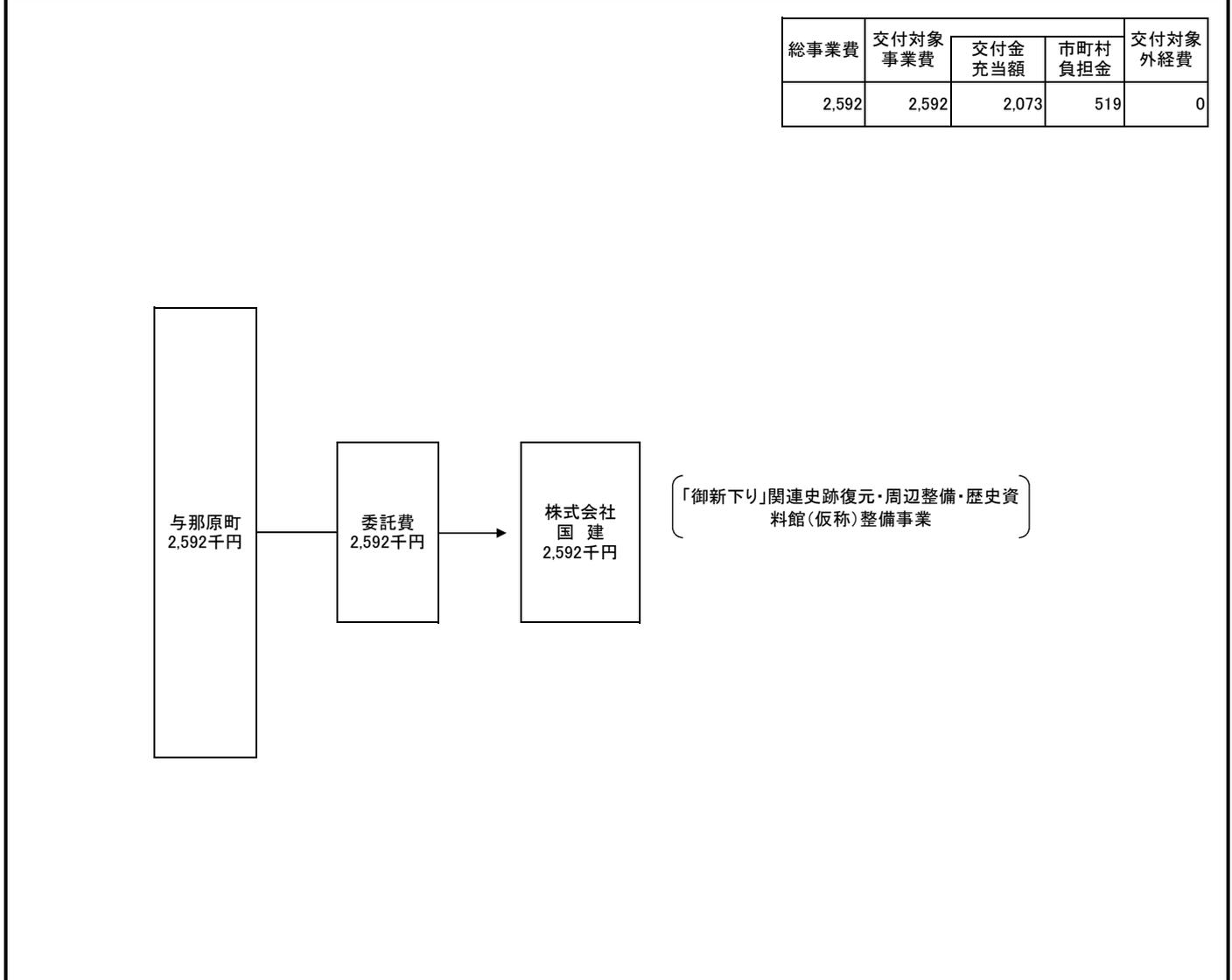
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
	整備基本計画の策定(課題の整理、基本方針、基本施策の決定など)	目標 (課題の整理 基本方針 基本施策の決定)	()	()	()
	実績	課題の整理 基本方針 基本施策の決定			
達成状況説明	平成25年度に作成した与那原町聞得大君「御新下り」と「与那原街道」歴史の道整備事業整備構想報告書を基に重要3史跡に関する課題の整理、基本方針、基本施策の決定を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
		施設整備に向けた方向性の整理(整備基本計画の策定)	(-)	(整備基本計画の策定)	(-)	(-)
		実績		整備基本計画の策定	-	-
進捗状況説明	平成25年度に作成した与那原町聞得大君「御新下り」と「与那原街道」歴史の道整備事業整備構想報告書を基に重要3史跡に関して専門家や関係者等からなる検討委員を委嘱し、①指定理由・本質的価値の構成要素等、②現況と課題、整備の方向性、③構成要素整備に向けた基本的な考え方、④現況、⑤整備案などをだし、平成28年度与那原町「御新下り」関連史跡復元・周辺整備・歴史資料館(仮称)整備事業事業内容再検討報告書を作成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>○平成28年度与那原町「御新下り」関連史跡復元・周辺整備・歴史資料館(仮称)整備事業内容再検討報告書の中で重要3史跡に関する、現況と課題、整備の方向性、構成要素整備に向けた基本的な考え方、整備案が出された。それを基に整備に関する基本設計、実施設計を行い、関連史跡復元・周辺整備を行う。与那原歴史資料館(仮称)の整備構想や既存の与那原町立綱曳資料館の活用に関しては次年度に検討委員会を立ち上げて対応することとする。</p>	<p>○与那原町立綱曳資料館施設活用検討委員会を立ち上げ、今後の資料館の活用検討を行う。与那原歴史資料館(仮称)に関しては「綱曳資料館施設活用検討委員会」結果報告書の検討内容を踏まえ、「歴史の道の駅基本計画委託業務」に反映させるかを検討する。</p> <p>○「親川」整備に伴う用地買収業務が平成30年度から行う予定であるため、地権者・建物所有者との話し合いを重ね事業がスムーズに遂行できるように努める。</p>

今後の取り組み方針
<p>○3史跡のうち「御殿山」「親川」の整備基本設計、実施設計の策定を行う。(三津武嶽については国道バイパス事業との絡みもあるため、事業進捗を確認しながら実施設計を行う。)</p> <p>○「親川」整備に伴い、不動産鑑定業務や物件補償算定業務の委託業務を発注し、用地買収事業認定申請・認定処分決定を行う。</p> <p>○平成29年度に発注予定の「御新下り」関連史跡復元・周辺整備・歴史資料館(仮称)整備事業の「綱曳資料館施設活用検討業務」及び「歴史の道の駅基本計画委託業務」の結果を踏まえ、史跡整備の実施設計や基本設計に反映させる。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額は77千円であり、適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○整備事業を進めるうえで必要な委託事業であり、額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那原町
------	------

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	15-① 与那原町ウォーターフロント整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
中城湾港マリンタウンプロジェクトにより造成された東浜地区と既成市街地との間の東浜水路を新たな観光資源として活用するため、東浜水路沿いに修景施設等及び憩いの広場を整備する。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	96,500	31,622	255,290	-	
	(b) 予算現額	15,000	30,903	255,290	-	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 81,500	▲ 719	0	-	
	(d) 繰越額	0	-	0	111,335	
	A. 計 (b+d)	15,000	30,903	255,290	111,335	
	B. 執行済額	14,843	30,903	143,954	110,418	
	うち交付金充当額	11,874	24,723	115,163	88,334	
	次年度繰越額	0	-	111,335	-	
	執行率 (%) (B/A)	99.0%	100.0%	56.4%	99.2%	
	予算の状況の説明	交付決定ご速やかに用地を購入し工事に入る予定だったが、一筆だけ交渉に応じてもらえず買収に時間を要した。その結果、工事発注が下半期となってしまった為、工事費が繰越となった。繰越額については、ほぼ満額執行することができた。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
		<small>(東浜水路憩い広場整備事業)</small> ・用地取得(7筆・1,079㎡) ・物件補償(3件) ・造成工事、建築工事	目標 () 実績 土地所有者不明地等に係る事業認定申請図書作成 広場設計・展示施設設計等	() ・用地取得 ・事業認定申請	() ・用地所得 ・物件補償 ・工事発注
達成状況説明	・平成26年度から、交渉を続けていた用地をすべて所得することができた。 ・物件補償についてもすべて取得することができた。 ・造成工事及び便所・倉庫建築工事を予定どおり、完成させることができた。				

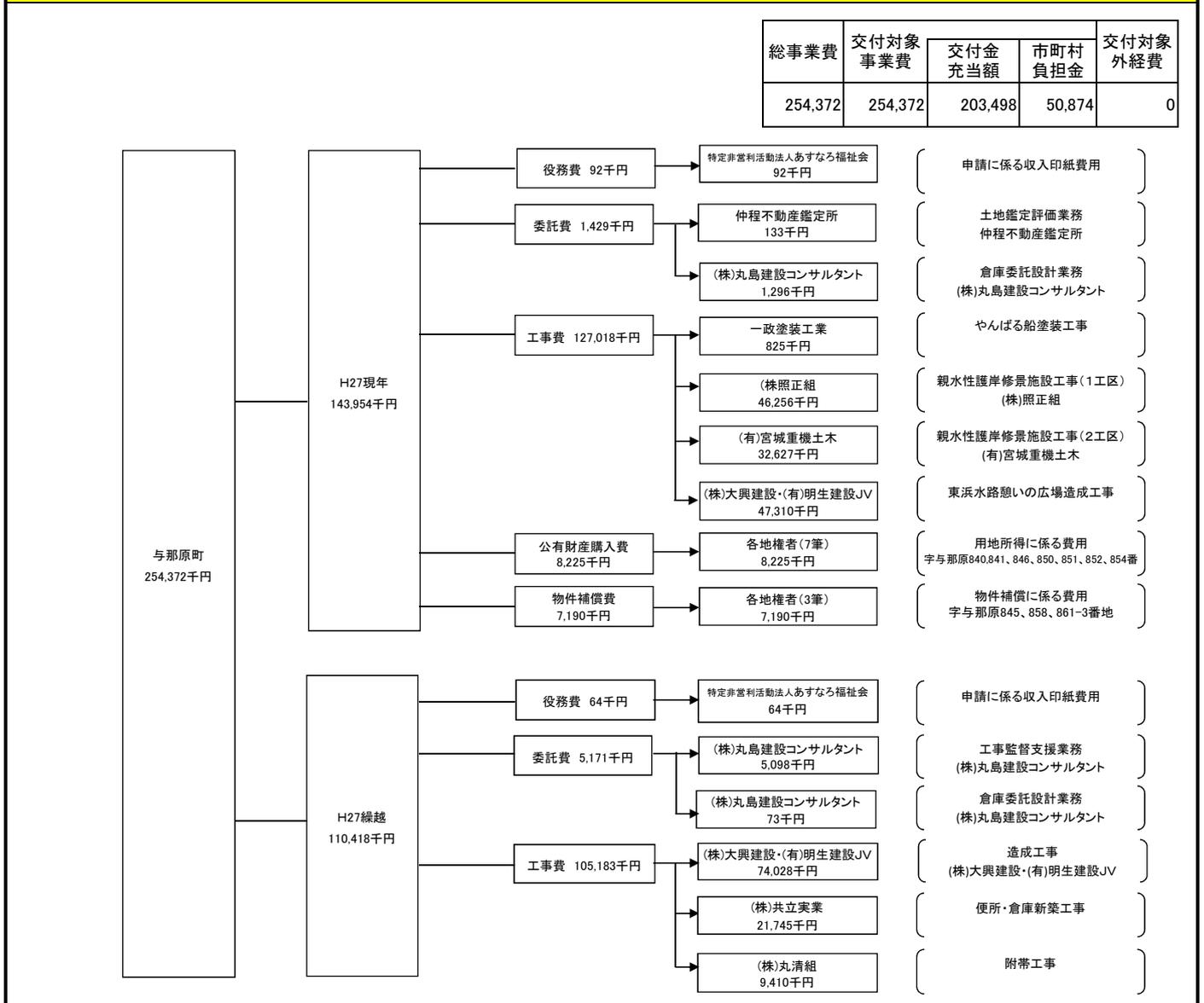
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
		東浜水路の観光活用に向けた基盤整備率70%	(-)	() ・用地取得 ・広場、展示施設設計	() ・用地所得 ・事業認定申請	() 基盤整備率70%完了
	裁決申請図書作成及び裁決申請	(-)	(-)	() 裁決申請図書作成 裁決申請	(-)	(-)
	進捗状況説明	・未買収の用地をすべて取得する事ができた。 ・順調に3件の物件補償が完了し、工事に着手する事ができた。 ・工事は順調に推移しており、造成工事及び建築工事は多少の工期の延期はあったが予定どおり完成できた。 ・以上のことから基盤整備率は70%となり、目標を達成することができた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	造成工事の際に4回の契約変更を行っているが、3回が工期のみの変更となっていました。その理由として、5月から6月に掛けて訪れる梅雨を考慮していなかった。工事は造成工事ということもあり、大分影響を受けてしまっ	今後は、工事の時期や工種、現場の状況を加味しながら、適切な工期の設定を行うとともに、現場との調整を密に行い進捗を図る。

今後の取り組み方針

平成28年度整備完了に向けて、当該施設を県内外へ広くPRすると同時に、施設を活用したイベント等を企画・運営するなど、他事業との連携が出来ないか検討したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争型入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	